

善 古
本 典
展 籍

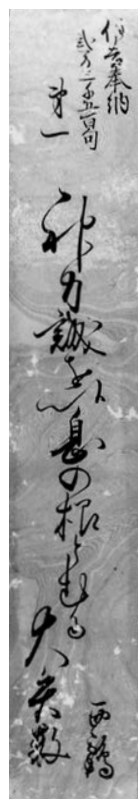
ご挨拶

昭和四十八年（一九七三）の初夏、二十四歳になったばかりの私は縁あって中尾松泉堂という古書籍商の店で働くことになりました。今は五階建てのビルになっていますが当時は小さな木造の建物で、松泉堂の初代中尾熊太郎が大正四年（一九一五）主家鹿田松雲堂から別家を許されたお店でした。当時の住所は大阪市東区淡路町四丁目で、江戸時代後期にはこの辺に藤沢東咳の泊園書院があり、もう少し北の尼崎町には享保年に当時の大坂船場の鴻池等の豪商が資金を出して設立した懷徳堂がありました。懷徳堂は商人の子弟教育の為に創られましたので、受講中でも用事があれば出て行き用事が済めば帰ってきてよい、という正に町人用の教育体制でした。ここから山片蟠桃が出て『夢の代』という十二巻の書を著し、西洋の地動説を肯定し、神も仏も存在しないという唯物的な考えも示しました。この蟠桃という名は商人の番頭をもじった号で、元々升屋の凄腕の番頭だった彼は仙台藩の財政をたて直した功績で升屋から山片と言う姓を与えられ親類並みに優遇されました。去年日本一になった阪神タイガースの岡田監督が小学生時代に通っていたという愛日小学校も元はと言えばあの山片蟠桃の屋敷跡で、明治時代になって公立の小学校を創るといので山片家の八代目当主重明が土地・家屋・建具すべてを大阪市に寄贈したものでした。平成の時代になってこの愛日小学校と集英小学校が開平小学校として統合された時に大阪市は山片家からタダで貰ったこの地を民間企業に売ってしまいました。統合という名のもとに売却しましたが、実は市の赤字の埋め合わせであって、父堅一郎は『なちゅうことするねん。公共の施設にするならともかく山片家から寄贈された土地を売り飛ばしてしまうとは。』と憤慨しておりました。

江戸時代の船場の商人の富は日本国中の七割を持つ、といわれたように大坂は栄えましたがまたその中からいつしか町人文化というものが生まれました。天和二年（一六八二）、『好色一代男』という浮世草子八巻が大坂の荒砥屋から出版されましたがこの作者は井原西鶴という鬼才で、主人公の世之介はなんと七歳で恋を知り、九歳で女の行水を覗き見し、十歳で美少年を口説き、十二歳で風呂屋の湯女十三歳で茶屋女十五歳で京都の後家と関係を持つという具合でその後は全国の遊女等々好色の限りを尽くして最後は女護ヶ島へ船出する、という当時としては途轍もない構想で世間の人々をびっくり仰天させました。挿絵も西鶴自身が描いたようですが、江戸版の方は師宣が描いてまた人氣を博しました。西鶴は元々芭蕉と同じように俳句の宗匠でしたが句風は阿蘭陀流とか言って独特のものだったようです。また矢数俳諧という俳諧興行を考え、延宝五年（一六七七）生玉神社で一昼夜に一千六百句を詠んで周りを驚かせましたが、二年後大淀道風が三千句を詠んだのに対抗して翌延宝八年生玉神社で独吟四千句を詠んで抜き返しまし

た。まあこれにも飽き足らず貞享元年（一六八四）住吉の神前で一昼夜二万三千五百句の独吟を達成して以後自らを「二万翁」と名乗りました。矢数俳諧では詠む俳句の書き手が四〜五人待機して全ての俳句を書き留めるのですが、一昼夜二万三千五百句となると一句詠むのに数秒しかかけられないので書き残されたのはその初句のみであとはただ棒線のみを引き続けただけと言われています。

平成二十一年（二〇〇九）の一月、大阪美術倶楽部の初市でその時の初句を書いた西鶴の短冊が張り込んである屏風を運よく手に入れました。大阪市立博物館で開催された『三百年祭記



念『西鶴展』図録（朝日新聞社 平成五年）に載る発句を書いた写真と比べてみましたが、筆跡も料紙も西鶴時代のものではなく後に書かれた写しでしたから多分参考品として図録に載せたものと思われます。ともあれ買ってきた屏風の短冊を父に見せると初めて褒めてくれて大変喜んでくれました。この西鶴自筆の発句入った屏風には和歌や俳句の色紙短冊が百枚ほど張り込まれていましたが相当痛んでいましたので、後にそこから俳句の短冊のみを十八枚抜き出して二つ折れの風呂先屏風の様に仕立てました。この年の七月十日に父は鬼籍に入りましたがお葬式の日は奇しくも十三日で私の誕生日、すなわち還暦を迎えた日でもありました。

私の古本屋人生もいつしか半世紀余を過ぎ、今年の七月には七十五歳になり後期高齢者の仲間入りをします。今年もまた家の前の百年にもなるうかという桜の老木が立派な花を咲かせました。中学生になる二番目の孫と、小学生になる三番目の孫の新入学をお爺さん桜が祝福してくれました。今はもう殆ど葉桜になりましたが私もこの木のようにしっかりと地に足を張りつけて残りの古本屋人生を生きていこうと思います。

今年も大阪古典会の下見展観市を開催させて頂くことになりました。全国ご同業の皆様のご協力により年々目録総数が増え、参加業者も増えてきています。五月晴の良き日、大阪古典会の下見展観市にどうぞ沢山の本好き、版画好きの皆様が集って頂けることを願ってやみません。

令和六年四月十四日

大阪古典会会長 中尾隆夫

大阪古典会創立百二十二周年記念

古典籍展観入札会

展 観

五月二十四日（金）午後三時より午後七時まで

五月二十五日（土）午前十時より午後六時まで

入 札

五月二十六日（日）午前十時廻し開始（開場 午前九時）

（全古書連加盟業者のみで行います）

会 場

大阪古書会館

大阪市中央区粉川町四一

TEL（〇六）六七六七―八三八〇

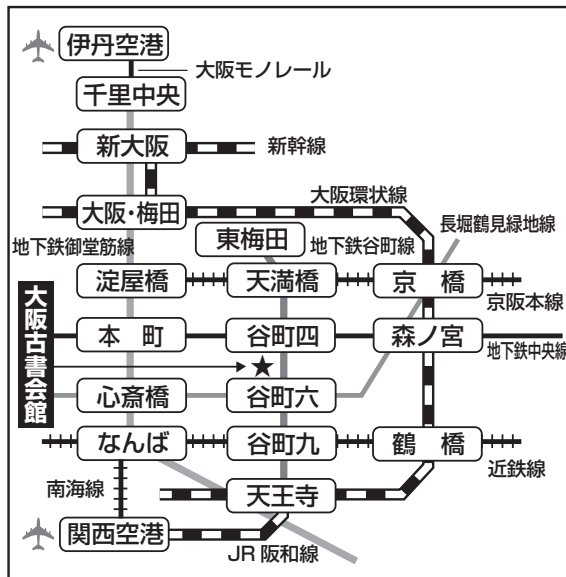
取引規定 一点 五万円以上

但し 額・幅物・屏風は一〇万円以上

○入札は全古書連加盟業者が行います。ご希望の品がございましたら、ご懇意の書店へご注文下さい。
なお落札の際は、落札の価格に加え若干の手数料を頂戴いたします。

○会場内への筆記用具以外のお手荷物の持込はご遠慮下さい。

[会場の御案内]



大阪古書会館

大阪市中央区粉川町 4-1 TEL: 06-6767-8380

○交通のご案内

- 地下鉄谷町線 / 中央線 谷町 4 丁目駅⑧番出口
- 地下鉄谷町線 / 長堀鶴見緑地線 谷町 6 丁目駅⑤⑥②番出口
- 地下鉄長堀鶴見緑地線 松屋町駅⑤番出口
- 阪神高速道路 法円坂出入口
- タクシー 内久宝寺町三丁目交差点南入

目次

写本

古写経・古写本・古筆切 1

国文学・古典芸能 2

国史・地誌 4

絵本・諸芸・趣味 6

医書・本草・易書・洋学 10

仏教・宗教 11

漢籍 12

版本

古版経・古版本・古活字本 12

国文学 13

国史・地誌 16

絵本・諸芸 17

医書・本草・易学・洋学 20

仏教・宗教 21

漢籍	22
古文書・古記録	22
書画・筆蹟	24
近代書画	27
中国・朝鮮 書画筆蹟	28
中国版画	29
中国経卷	30
唐本・朝鮮本	30
書道・法帖・印譜	35
浮世絵・版画・摺物	36
春画・艶本	45
古地図	47
近代資料・文献	49
複製・美術書・洋装本・屏風・その他	51
追加	54